

活動報告

◆第20回研究会が開催されました

(日時) 2010年7月31日(土) 午後1:00~

(場所) 同志社大学寧静館4階

(内容)

研究発表① 竹久夢二と少女文化 — 『新少女』読者投稿画の変化をめぐって 小嶋洋子(関西学院大学大学院研究員)

研究発表② 近代挿絵画家の分類試論 中谷伸生(関西大学)

休憩

『大正イマジュリィ辞典』(仮称)についての報告及び事例発表と討議

【事例発表】 「大正イマジュリィの世界――〈趣味〉番付を手がかりに」 岸文和(同志社大学)

【報告&討議】(座長) 岸文和(同志社大学/『大正イマジュリィ辞典』編集事務局)

◆ 学会誌『大正イマジュリィ』第5号が発行されました。

第5号の特集は「「イマジュリィ」道楽―収集・交換・成算をめぐって―」です。他に論文や資料紹介など 充実した内容となっています。すでに皆様には発送済ですが、まだお手元に届いていらっしゃらない方は、 事務局までご一報下さい。

また別途ご購入される場合は、会員は1冊1260円(送料無料)、非会員は1冊2100円(送料別)となります。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。郵便振替用紙を同封して郵送いたします。

活動予定

◆第21回研究会

- (日時) 2010年11月
- (場所) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 [予定]
- (内容) 研究発表 ほか
 - ※ 現在発表者を募集中です。発表ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

◆第8回全国大会

- (日程) 2011年3月12-13日
- (場所) 京都精華大学北仲スクール(横浜市)
- (内容) 総会/シンポジウム/第22回研究会 ほか

(1) 学会誌『大正イマジュリィ』編集事務局からのお知らせ

- ①学会誌『大正イマジュリィ』も、今春の第5号まで無事に刊行することができました。これもひとえに執筆者の皆様、編集委員の方々及び事務局のご尽力の賜物と感謝いたします。次号から編集事務局を下記の通り変更して、業務を編集委員の高橋千晶が担当いたしますが、会員の皆様、編集委員の皆様方の一層のご指導と変わらぬご支援をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
- ②現在、編集事務局では第6号の原稿を募集しています。執筆要領については、第5号139ページをご覧ください。締め切りは9月末日、原稿の宛先は下記の編集事務局です。
- ③ 投稿を予定されている方は、締め切りの3週間前までに編集事務局にお知らせください。原稿提出の詳細につきましてご説明いたします。なお、執筆者には雑誌を5部無料で送付します。また、抜刷は執筆者本人の負担で作成しますので、必要な場合は校了時までに編集事務局までお申し込みください。

『大正イマジュリィ』編集事務局 (郵送の場合)

〒602-8580 京都市上京区烏丸今出川同志社大学文学部 岸文和研究室 (問合せ先)

(電話) 075-451-7622 (メール) editimagerie@mbc.nifty.com

(2) 学会後援の展覧会

「挿絵 = 日本画 高畠華宵の大正イマジュリィ」展(2010年7月24日~9月12日/会期中無休) 於:小杉放菴記念日光美術館(栃木県日光市山内2388-3/TEL0288-50-1200)

(展覧会内容/小杉放蕃記念日光美術館ホームページより)

1888年に愛媛県の宇和島市で生まれた高畠華宵は、画家を志し、はじめ、京都市立美術工芸学校日本画科や、浅井忠が創立した関西美術院などで、本格的な日本画や洋画を学びました。しかし、生活苦や家庭の事情などにより上京し、肉体労働に従事しながら画業に励んでいた1911(明治44)年、津村順天堂の「中将湯」の広告に描いたペン画が一躍、注目を浴び、以後は、グラフィック・デザインの分野で活躍。挿絵画家として広く知られることになります。オーブリー・ビアズリーの影響を受けたとされるシャープなペン画が、当時の印刷技術の革新にうまく適応したこともあり、大正時代に、『少女画報』、『少女倶楽部』、『少年倶楽部』、『日本少年』、『婦人世界』などの雑誌に挿画として描いた独特の美少年や美少女の絵は一世を風靡しました。

高畠華宵は、雑誌のために描いた美人画の着物や洋服も自らデザインしており、それが時代の最先端のモードとして、広く世間にも受け入れられています。現在のキャラクターグッズの先駆とされる「華宵便箋」や「華宵封筒」が発売され、1928(昭和3)年の流行歌「銀座行進曲」には、当時の風俗として「華宵好み」という言葉が使われるなど、さまざまなメディアを通じて時代のファッション・リーダーの役割も果たしました。一方で、生涯を通じ、日本画や油彩画の制作も継続して行なっています。

高畠華宵の初期の日本画は、当時の京都の日本画からの影響が色濃く反映されたものでしたが、挿絵で独自のスタイルを確立して以降、次第にモティーフや描法が両者の間で類似してきました。そこでは、使用される画材が異なるだけで、一見すると日本画か挿絵か区別がつかないような作品も見ることができます。洋画を学んで培われた堅実なデッサンカと、伝統的な日本画の修業で獲得した高度な線描の技術が、挿絵の制作においても遺憾なく発揮されたといえるでしょう。

今回の展覧会では、高畠華宵大正ロマン館より、高畠華宵の挿絵と日本画の作品を一括して借用し、それらを対比的に展示することで、近代の芸術観において周縁部とされる挿絵などのグラフィック・デザインの作品と、正統的とされる日本画との間に密接な関係があったのではないかという観点を提示し、複製技術時代の芸術における線描の新たな可能性についても探る機会にしたいと考えています。

《会員消息》

① 山田優子会員より(展覧会情報)

「夢二と文学ー装幀、挿絵から小説、短歌、童話、童謡まで一」

場所:金沢湯涌夢二館(石川県金沢市湯涌町イ144-1 /TEL 076-235-1112)

会期:2010年7月3日~9月19日/会期中無休

(展覧会内容/金沢湯涌夢二館ホームページより)

当館のコレクションには、夢二の絵画とともに文学作品も数多くふくまれています。彼は小説も書けば、詩や短歌も詠み、50 冊あまりの著作をのこしました。それらの全てにおいて、装丁、挿絵を夢二自身で手がけており、そこには彼の感性がまるで宝石のように結晶しています。 会場では、幅広い文筆活動をいまに伝える著作本、そしてまた、長田幹彦や吉井勇をはじめとする同時代の文士たちのために手がけた美しい装丁本(当館初公開作品を含む)、その両方を同時に展示します。 これらの作品を通して、画家であり、文筆家であり、またデザイナーとしても才能を発揮した夢二の魅力をご紹介する機会になれば幸いです。多才な表現者が作りあげた、総合芸術の世界をお楽しみください。

② 上薗四郎会員より(展覧会情報)

「一夭折の日本画科・型絵染の人間国宝-稲垣仲静・稔次郎兄弟展」

場所: 笠岡市立竹喬美術館(岡山県笠岡市六番町 1-17 /TEL 0863-65-3967)

会期:2010年7月19日~8月29日/月曜休館)

(展覧会内容/笠岡市立畢竟美術館ホームページより)

型絵染の人間国宝として知られる稲垣稔次郎(としじろう・1902-1963)の兄に、細密描写と不気味な官能表現で一瞬ながら強烈な輝きを残した日本画家・稲垣仲静(ちゅうせい・1897-1922)がいます。稔次郎は、第2回国画創作協会で《猫》が入選しながらもわずか25歳で夭折した兄仲静の画業を終世慕い、「兄貴と二人展をしたい。兄貴には負けへんで」と語っていたといいます。

仲静の画業は、大正時代における京都画壇のエロチック・グロテスク表現を見直す近年の動向の中で注目されています。 かたや稔次郎は、捺染友禅の図案家から出発して染色技術を独学し、型絵染の大成者として人間国宝に認定されます。 国画会、新文展、戦後は日展、そして富本憲吉が結成した新匠美術工芸会(現・新匠工芸会)において活躍するだけでなく、 今日を担う多くの染色作家を育てました。

今回の兄弟展は、仲静の没後 88 年をしてようやく開催される大規模な遺作展であるとともに、日本画家・工芸図案家の 父竹塢(ちくう)を持つ兄弟の、その研ぎ澄まされた感性と鋭い視線、錬成の技巧、そして時代を先取する独創性をこまや かに紹介しようとするものです。弟稔次郎の念願が叶った会場には、仲静作品約 140 点、稔次郎作品約 100 点が展示さ れます。京都という美術風土が育み、花咲かせた兄弟の競演をお楽しみください。

事務局から

住所や所属が変更になられた方は、学会事務局までお知らせ下さい。また会員の皆様からのイマジュリィ情報やご消息も併せてお寄せください。なお、ニュースレターは基本的にメールで配信しています。メールアドレスをまだ学会事務局にご通知でない方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。

「大正イマジュリィ学会」ニュースレター(vol.9) いまのいまじゅりい

(発行)「大正イマジュリィ学会」

(編集) 高畠華宵大正ロマン館(学会事務局/ 愛媛県東温市下林) (phone) 089-964-7077/(fax) 089-964-7222/(E-mail) museum@kasho.org